

		国語科 平成27年度重点目標													
		項目21		項目23		項目25									
重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない  達成度 [4]75～100%(ほとんど) [3]50～74%(まあまあ) [2]25～49%(もうすこし) [1]0～24%(わずか)		<目標> ① 様々な文章を通じて、その学年や年齢にふさわしい国語の領域、特に読解力・表現力を向上させる。また、その基本的な力となる語彙・論理的な思考を身につけさせる。 <計画> ① 教科書や副教材を最大限利用し、単に授業だけで完結せずに、その前後で予習や復習と連動できるようなプリントや教材作り、課題の作成を行う。授業においては発言や記述の機会を増やし、生徒の自発的な言語活動を促す。 ・漢字テスト、単語テスト、文法テストなどの小テストを週に1回以上実施する。成績不振者、学習不振者に対しては勿論のこと、より高い学力の向上を望む積極的な生徒に対しても、放課後や長期休暇を利用した講習を設け、授業以外の学習の機会もできるだけ増やす。													
		<目標> ② 生徒が文章や言葉、あるいは文章を通じて様々な文化や考えに関心を持ち、積極的に言語活動に取り組めるような授業を実践していく。 <計画> ② 中学では読書指導、百人一首大会、創作活動や読書感想文を、高校では文章検定や各種演習や課外講習を実施する。また、授業でのディスカッションや質疑応答、生徒による発問の機会を多く与えていく。													
		<目標> ③ メディアを活用した、創意工夫のある国語の授業を行う。 <計画> ③ 便覧や辞書などの資料教材を十分に活用しつつ、電子黒板を用いた映像や音声教材も利用し、板書だけにならない授業を実践する。また、教員間相互で利用できる教材や資料を作成していく。外部研修にも積極的に参加し、教員間での意見交換を活発にする。													
			項目21		項目23		項目25								
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度								
	部署コード/平均	4.0	3.4	3.8	3.1	3.4	3.1								
	8	11	4	3	4	3	4	2							
	11	11	4	4	3	3	4	4							
	25	11	4	2	4	2	3	2							
	27	11	4	4	4	3	3	2							
	39	11	4	4	4	3	4	4							
	42	11	4	4	4	4	4	4							
	57	11	4	4	4	4	3	3							
	60	11	4	3	4	3	2	3							
	71	11	4	3	4	3	4	3							
		<取組状況、次年度への課題など> 項目21、23、25については、概ね取り組んでいた。 来年度はタブレットを用いたIT授業も開始されるので、教科としてどのように活用していくか、また、どのように用いれば効果的な学習あるいは授業となるのか、研究をさらに深めていきたい。また、教科内の教員の情報交換を活発にして、各教員がスキルアップを図れるように心がけていきたい。													

社会科 平成27年度重点目標																					
重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない  達成度 [4]75～100%(ほとんど) [3]50～74%(まあまあ) [2]25～49%(もうすこし) [1]0～24%(わずか)	項目21	<目標> ① 授業におけるタブレットの積極的利用、アクティブラーニングの要素を入れた授業を開発する。 <計画> ① タブレットを用いた双方向授業の研究、授業実践を始める。																			
	項目23	<目標> ② 高校生の外部模試やセンター試験で設定された学年目標数値を達成する。 <計画> ② 補習や講習を積極的に行い、高2、高3で設定された数値目標達成する。そのため、通常授業の工夫や改善、定期考査をこれまで同様に大学入試レベルとする。																			
	項目25	<目標> ③ 教員の大学入試過去問研究を行う。 <計画> ③ 教員がさらに入試問題の出題傾向を分析し、指導に活かす。																			
	項目27	<目標> ④ 大学入試改革に向けて、大学入試問題の研究と教科としての対応を図る目的の研修を実施する。 <計画> ④ 外部研修会に積極的に参加して、情報の収集を図るとともに教科内での情報の共有化と検討を重ねる。																			
	項目29	<目標> ⑤ グローバルリーダーコースでの社会科・地歴公民科での科目・内容を研究する。 <計画> ⑤ SGH委員会・進路部・入試広報部との連携を図りながら検討を進め、提言をしていく。																			
部署コード/平均		3.6	2.3	3.8	2.9	3.6	2.9	3.6	2.5	3.5	1.9										
1	12	4	1	4	3	4	3	4	3	3	1										
3	12	4	2	4	4	4	4	4	3	4	3										
12	12	3	3	4	4	4	4	3	3	3	3										
13	12	5	4	5	4	4	4	4	4	5	4										
17	12	4	4	4	3	3	3	4	3	4	2										
32	12	4	2	4	3	3	3	3	3	3	2										
40	12	4	2	4	3	4	3	4	2	3	2										
49	12	3	3	3	1	4	1	4	2	4	1										
51	12	3	1	3	2	4	3	4	1	3	1										
67	12	3	1	3	2	3	2	3	2	4	1										
70	12	3	2	4	3	3	2	3	2	3	1										
<取組状況、次年度への課題など> 昨年度までの重点目標は納得できる段階まで取り組むことができたものが多い。そこで、今年度はこれから必要と思われる新たな長期的な目標を厳選して掲げた。このうち項目21,29については本校にとって特に重要になる項目となっている。しかし、現段階では一部の担当者任せになってしまっており、社会科全体の取り組みまでには至らなかった。現在の大学入試システムに対応できる授業案を考えるだけでなく、2020年以降の入試システムに対応できる力をつける授業案を来年度以降も引き続き検討したい。 項目23については、高い目標を掲げており、実現はなかなか難しいものがある。しかし、社会科は目標を高くもって今後も取り組んでいきたい。そのためにも、教員ひとりひとりが項目25,27を実践する必要がある、自覚を持って今後も取り組みたい。																					

数学科 平成27年度重点目標											
重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない  達成度 [4]75～100%(ほとんど) [3]50～74%(まあまあ) [2]25～49%(もうすこし) [1]0～24%(わずか)	項目21	<目標> ① 基礎学力の定着を実現するため、数学科として組織的に取り組む。 <計画> ① 中学で実施している学力推移調査テスト、及び高校で実施しているスタディーサポートテストなどの結果をふまえて、授業ではもちろんのこと、授業以外の時間も有効活用して、弱点の補強を図る。特に、中学では基礎基本の習得を重視し、ブレインエクササイズや小テストなどで基礎計算の練習を行い、出来ない生徒に対しては、放課後等に個別指導やチューターの援助を得るなどして定着を図る。									
	項目23	<目標> ② 電子黒板を用いた授業の開発、ビデオ教材を活用した授業や講習を実践する。 <計画> ② 電子黒板とIT機器を活用した指導法の開発として、進研模試解説と青チャート解説などビデオ教材は今までに800本近く制作することができた。大学入試問題解説や、青チャート解説などを進める。また、この開発を通して、教員相互の指導力アップを図る。									
	項目25	<目標> ③ メンター制度への対応を含め、生徒の進路実現のため、個に応じた指導を充実させる。教師の受験指導力の向上を図る。 <計画> ③ 年間の補習・講習計画を早期に立てる。中学では、成績不振者を対象とした放課後の指名補習、高校では大学受験講座を充実させる。教員の受験指導力向上のため、今年も夏休みに研究会を実施する。									
	項目27	<目標> ④ 新学習指導要領の実施に伴い、新しく導入される単元の指導法を研究する。 <計画> ④ 「データ分析」のオリジナル教材を改良し、さらに良いものにしていく。今年度も電子黒板の有効活用の指導例を積極的に開発していく。データ分析の内容から各自がテーマを選んで数学的活動を行う。									
		項目21	項目23	項目25	項目27						
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度		
	部署コード/平均	4.0	3.5	3.7	3.1	3.7	2.9	3.7	2.9		
	9	13	4	4	3	2	3	3	4	4	
	10	13	4	3	4	3	4	2	4	2	
	22	13	4	3	4	2	4	3	4	2	
	23	13	4	2	3	4	3	3	3	4	
	33	13	4	4	4	4	4	4	3	3	
	34	13	4	3	3	2	3	2	4	2	
	43	13	4	4	4	4	4	3	3	3	
	46	13	4	4	4	3	4	3	4	3	
	50	13	4	4	4	3	4	3	4	3	
	56	13	4	4	4	3	4	3	4	3	
	64	13	4	3	4	4	4	3	4	3	
<取組状況、次年度への課題など> 項目21については、すべての教員の重要度が一致して高く、数学科としてもっとも重要視する課題であることが再確認できた。ただし、達成度にはばらつきがある。 項目23については、取り組み始めてから3年を過ぎ、制作したビデオも1300本を超えてきた。今後もICT活用に向けて努力していく。 項目25及び27についての取り組みも順調に進んでいる。さらなる、教科内研修を深めていきたい。											

		理科 平成27年度重点目標							
重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない  達成度 [4]75～100%(ほとんど) [3]50～74%(まあまあ) [2]25～49%(もうすこし) [1]0～24%(わずか)	項目21	<目標> ① 新課程センター試験の傾向および大学入試問題の予想の情報を多く収集し、授業展開に生かす。また、次年度以降のカリキュラムについて検討する。 <計画> ① 新課程のセンター試験に対して、以下のことを留意しながら授業展開及びカリキュラムの改定についての検討を行う。 ・今年度の各大学のセンター試験利用などの情報をいち早く把握し、その対策を行う。 ・各大学の入試導入状況などを考慮し、教科会及び教育課程委員会で十分に検討を行ったのち、生徒の進路希望にも対応できるカリキュラムを検討する。 ・同内容について実施される大学入試問題にも対応できる授業内容・教材開発の研究を行う。							
	項目23	<目標> ② 電子黒板の利用を含めた、授業コンテンツの共有化についての検討および改善を行う。 <計画> ② 単元の学習内容の理解に必要な観察・実験を、電子黒板を使った演示実験を含め、なるべく多く実施できるように、実験書の改善・作成を行う。また、生徒の知的好奇心を喚起できる機会を増やすべく、電子黒板を多く利用し、様々な項目について映像・写真利用も含めた授業コンテンツを作成する。その後、それらを共有し、次年度の担当教員にも利用できるように整理する。							
	項目25	<目標> ③ 今年度のアドバンス入試の分析を行い、入試問題が、本校の理科教育が目指す学力と相関性の高いものになるように工夫する。 <計画> ③ 身の回りの事物や現象に関心を持ち、それらを科学的に探求する姿勢・能力、科学的な見方や考え方を問う問題の作成を行う。また、昨年はじめて実施した理科のアドバンス入試問題について、詳細に分析し、次年度入試に生かせるように工夫する。							
	項目27	<目標> ④ 講習などを通して、学力の向上を目指す。 <計画> ④ 模試分析の結果をふまえて、教科で検討し、前年度結果を下回ることを決してないように講習によって対応する偏差値分布による目標人数を物理・化学・生物の各科目で設定し模試終了後教科会で対応を検討する。							
		項目21	項目23	項目25	項目27				
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度
部署コード	平均	3.8	2.9	3.4	3.0	3.5	2.8	3.4	3.1
7	14	3	3	3	3	3	3	3	3
18	14	3	3	3	3	3	3	3	3
26	14	4	3	4	3	3	3	3	4
31	14	4	2	4	3	3	2	4	3
35	14	3	2	2	2	3	2	4	4
44	14	4	3	4	4	4	3	3	2
53	14	5	4	4	4	5	3	4	3
68	14	4	3	3	2	4	3	3	3
<取組状況、次年度への課題など> 項目21については、重要度が一番高いのに対して重要度が低い。新課程入試も来年度で三年目になるので、過去問等資料も増えたので今後、授業担当者のみだけでなく、教科で情報を共有できるようにしていく。 項目23については、教材の種類は増えてきたので、今後は生徒がタブレットを使用して家庭学習にも使用できるようなデジタル教材・コンテンツを作成・研究していく。 項目25については、全項目の中で一番達成度が低かった。取り組み自体はしっかりと行うことができた。次年度以降も継続していきたい。 項目27については、重要度と達成度が一番近いものであった。昨年度以上に放課後講習や授業時間外の小テスト等を行い、中高ともに基礎学力の定着を図ることを目標として取り組んできた。次年度以降も継続して行っていきたい。									



保健体育科 平成27年度重点目標										
重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない  達成度 [4]75～100%(ほとんど) [3]50～74%(まあまあ) [2]25～49%(もうすこし) [1]0～24%(わずか)	項目21	<計画> ① 中学・高校の保健の授業について、電子黒板を十分に活用する。 <目標> ① 電子黒板の授業に必要な教材を揃えて、教科で共有し、授業展開に活かす。								
	項目23	<目標> ② 生徒が心身の健康に関する正しい知識を習得させるだけでなく、正しい行動をとれる学習力を育てることを図る。 <計画> ② 保健の授業を通じて、生徒が運動・健康の重要性を認識し、日常生活の中で具体的に活用し実践できるように取り組む。								
	項目25	<目標> ③ 「体育の授業における心得」を通じて、指導の一貫性を図る。 (礼儀・時間厳守・思いやり・身だしなみ・協調性) <計画> ③ 生徒全体に心得を熟知させ、授業を受ける態度や意欲など、積極性を持たせるようにする。また体育を通じて協調性および礼儀の重要性を認識するよう取り組む。								
	項目27	<目標> ④ 体育の授業を実施するにあたり、怪我の防止、安全確保を図る。 <計画> ④ 安全に授業を実践する為に、準備運動に重点をおき、用具の取り扱い方など危険性を無くすように用具の管理、点検を徹底するようにする。								
		項目21	項目23	項目25	項目27					
	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度		
部署コード/平均	3.6	3.3	3.6	3.0	3.8	3.3	4.0	3.5		
20	15	3	3	3	3	4	3	4	3	
30	15	3	4	4	4	4	4	4	4	
41	15	4	3	4	2	4	3	4	4	
58	15	4	#	3	#	3	#	4	#	
63	15	4	3	4	3	4	3	4	3	

<取組状況、次年度への課題など>  
 保健での電子黒板の授業は、全体育科教員が使用し実施し、次年度の教材を充実させていきたい。体育の授業で大きな事故も無く年間を通して安全に注意し、実践できたように思う。次年度も授業における心得を重視し取り組みたい。

芸術科 平成27年度重点目標											
重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない  達成度 [4]75～100%(ほとんど) [3]50～74%(まあまあ) [2]25～49%(もうすこし) [1]0～24%(わずか)	項目21	<共通計画> 共通教科会を通じて生徒の情報を共有し、一人ひとりの状況を把握し落ち着いた学習環境を整える。									
	項目23	<共通目標> ① 芸術の基礎技術を向上させると共に電子黒板、タブレットを使用することにより課題の理解を深める。 <計画> 音楽 ① タブレットの使用を通して、生徒一人一人が明確な自己分析を行い、更に高度な練習を行うことができるように工夫する。 美術 ① 電子黒板、タブレットを使用することにより課題の達成目標を明確に提示し、生徒一人一人が創造の喜びと達成感を味わい、最後まで仕上げられる工夫をする。 書道 ① 電子黒板、タブレットの使用を通して、毎回の共通課題を理解し、生徒一人一人が明確な自己分析を行う。その上で、自分の書表現を模索し、向上させる。									
	項目25	<共通目標> ② 芸術の本来持っている力によって作品を仕上げる過程において「豊かな心」「生きる力」を養い、情操教育に力を入れた指導を行い、「努力の後の達成感」「継続は力なり」という事実を体験させ「目標に向かって最後まで諦めずに努力する姿勢」を養う。 <計画> 音楽 ② 合唱コンクールなどでは、授業以外の時間に自主的に練習を行うことにより、リーダーシップ、協調性、情操面を育てる。また、生涯に渡り音楽と関わっていくことの意義、素晴らしさを伝える。 美術 ② 作品を制作する過程で、「制作の楽しさ」を実感させる教材を研究することで「持続力」を養う。 書道 ② 書文化の多様性や魅力を味わうことで、生涯に渡って書を愛好する心情を育てる。また作品制作を通して、物事を完遂させる力・心を充実させて楽しむ力を身につけ、生徒一人一人が「生きる力」を実感出来るように支援する。									
	項目27	<共通目標> ③ 学校外での発表、地域との連携を図るとともに、芸術に対する感性を育て、心を豊かにする演劇、音楽コンサート、美術展、書道展などを自分で選び、鑑賞し、感じたことを積極的に自分らしく表現、発表する。 <計画> 音楽 ③ 合唱コンクールなどで、他のクラスの演奏を鑑賞することにより、お互いの演奏を認め合う姿勢、また自分達の演奏を更に高めていく姿勢を育てる。 美術 ③ 観賞の時間を通して、美術史の流れを理解し、いろいろな作品に親しむ機会を多く作る。また、感じたことを自分らしい表現方法で報告できるようにする。 学校外での発表、地域との連携を図るとともに、自分の興味ある美術作品に触れられる機会をつくり、美術に関する感性を育てる。 書道 ③ 書鑑賞を通して、自らが感じたことを自らの言葉や文章で表現し、発信する力を養う。また、書と他の芸術分野との関連にも着目し、幅広い視野で芸術を捉える感性を育てる。									
		項目21	項目23	項目25	項目27						
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度		
部署コード/平均		3.7	3.7	3.3	3.0	4.0	3.3	3.5	3.0		
21	16	4	4	3	3	4	3	3	2		
48	16	3	3	4	4	4	4	#	#		
72	16	4	4	3	2	4	3	4	4		
<取組状況、次年度への課題など> 教科、勤務年数により違いはあるが、目標は概ね達成できていると思われる。 項目23に関しては今後も工夫探求が必要であると思われる。											

外国語科・英語プロジェクト 平成27年度重点目標

<全体目標>

重要度  
[4]大変に重要  
[3]やや重要  
[2]あまり重要でない  
[1]重要でない

達成度  
[4]75～100%(ほとんど)  
[3]50～74%(まあまあ)  
[2]25～49%(もうすこし)  
[1]0～24%(わずか)

項目21

<目標>  
① 中学段階で基礎学力の定着に取り組み、学力推移調査の文法・語彙、整序英作文問題において各学年とも、アドバンスクラスは平均得点率70%以上、コアクラスは50%以上を目指す。  
<計画>  
① 授業時間内に英単語・基本例文の発音や書き取りの練習を取り入れ、小テストでこまめに定着を確認する。教科で作成したデジタル教材を活用して、生徒の文法理解・反復練習に役立てる。

項目23

<目標>  
② 高校段階では、実践的英語力をさらに強化し、高1では、GTECの平均点アドバンスクラス500点、コアクラス450点を目指す。高2では、GTECの平均点アドバンスクラス550点、コアクラス480点を目指す。高3では、センター試験得点率アドバンスクラス80%以上、コアクラス60%を目指す。  
フランス語選択者、高1でフランス語検定5級、高2で4級、高3で3級合格を目指す。  
<計画>  
② 高校段階では、実践的英語力をさらに強化し、高1では、GTECの平均点アドバンスクラス500点、コアクラス450点を目指す。高2では、GTECの平均点アドバンスクラス550点、コアクラス480点を目指す。高3では、センター試験得点率アドバンスクラス80%以上、コアクラス60%を目指す。  
フランス語選択者、高1でフランス語検定5級、高2で4級、高3で3級合格を目指す。

項目25

<目標>  
③ 外国語で発信する力を高める。  
<計画>  
③ 各種スピーチコンテスト、ライティングコンテストへの積極的な参加を呼び掛ける。外国語発表会を発展させ、より多くの生徒に発信する場を与えるなどにより、外国語で表現することへの意欲・関心を高める。  
ICTを活用することで、セント・アンドリュース・カレッジやコリブリ留学生との交流をより活発にする。

項目27

<目標>  
④ 教科指導力を向上させる。  
<計画>  
④ 全教員が積極的に外部の研修会に参加し、その研修内容を教員間で共有することで、教科全体の啓発、意識改革を促す。  
教科内で定期的に授業見学を実施し、教員相互で自己研鑽に励む。  
大学入試問題の研究や模擬解説授業を行うことで、難関大学の入試問題への対応力を高める。

		項目21		項目23		項目25		項目27									
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度								
部署コード/平均		3.8	2.9	3.7	2.9	3.7	3.0	3.7	2.7								
2	17	3	3	3	3	3	3	4	3								
5	17	4	2	4	2	4	3	4	3								
14	17	4	3	3	3	4	3	4	2								
16	17	#	#	3	3	4	2	3	2								
19	17	#	#	4	4	4	3	3	3								
24	17	4	3	4	3	4	4	4	2								
28	17	4	3	4	3	3	2	4	2								
36	17	4	3	4	2	4	2	4	3								
45	17	4	3	4	3	4	4	4	2								
47	17	4	2	4	2	4	3	4	3								
55	17	4	3	4	3	4	4	4	3								
59	17	4	3	4	3	3	2	3	3								
62	17	3	3	3	3	3	3	3	3								
65	17	4	3	4	3	4	4	4	3								
69	17	4	4	#	#	4	3	4	3								

<取組状況、次年度への課題など>  
項目21に関しては毎週の英単語テストの実施、全クラスでのICTの利用などにより、概ね目標を達成している。  
項目23に関してもリーディング、ライティングの実践的英語力の伸張に努力した結果、GTEC等での目標を概ね達成している。  
項目25では、7名が全国高等学校生徒英作文コンテストに応募し、高校1年の飯野七香さんが優秀賞(全国で5名)に入賞した。  
また、外国語発表会は2回目となり、校内英語スピーチコンテスト、カナダ留学発表、SECクラス発表、フランス語発表などを行う。  
海外交流では本年度よりニュージーランドのニュープリマスガールズハイスクールとの交流が始まり、またセントアンドリュースカレッジとは相互交流を行って、ますます発展する傾向にある。  
項目27では教員の外部研修、校内の授業研修などを行い、指導力向上に励んでいる効果が出ている。



家庭科 平成27年度重点目標

重要度  
[4]大変に重要  
[3]やや重要  
[2]あまり重要でない  
[1]重要でない

達成度  
[4]75～100%(ほとんど)  
[3]50～74%(まあまあ)  
[2]25～49%(もうすこし)  
[1]0～24%(わずか)

項目21

<目標>  
①・グローバル人材の育成を目指し、生活に必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。日本と世界の文化の実践的学習を衣食住にわたり取り入れる。  
・アクティブラーニング授業を展開し、知的探究心を育み、問題解決能力や論理的思考力を向上させ、主体的に考えて判断し、自ら行動できる力を身に付けさせる。  
<計画>  
① 教員が講習会や研修会に積極的に参加することで、授業の質を向上させる。  
・学習単元に沿って、国際社会の仕組みや身近な課題に気付かせ、問題解決のためにどのようにしたら良きかを考える授業を展開する。  
・衣食住に関する日本の文化と世界の文化の違いなど、実習を通じて学習させる。

項目23

<目標>  
②・グローバル化が進む中、授業を通して必要とされる躰・マナーを身に付ける。  
・学習内容を将来の職業に結び付け、キャリア計画やライフプランに発展させ、国際的に活躍できる人材を育てる。  
・実習、作品製作や課題学習は、生徒一人一人の創意工夫を生かすことができるように目標課題設定計画を立案し、完成のための技術の習得と忍耐力を身に付ける。  
・高校2年生 家庭総合 食物検定4級、保育検定4級を全員が受験し、合格率100%。  
・高校3年生 家庭演習 食物検定3級、保育検定3級を全員が受験し、合格率100%合格  
・家庭科として、地域の人々との協力体制を整える。  
<計画>  
② 生徒が社会に目を向け、将来の自分の姿に高い理想が描けるように授業を通じて考えさせる。  
・実習を通して、国際的に通用するようなプレゼンテーション能力を育成する。  
・将来の職業生活に結び付くように、学習内容の中にキャリア計画を取り入れる。  
・興味・関心・意欲を持てる教材を選択する。  
・授業の中で検定の基準となる項目を取り扱った調理実習や保育実習を実施する。  
・地域の催しに積極的に参加・出品することで、お互いの理解を深める。

		項目21		項目23											
		重要度	達成度	重要度	達成度										
部署コード/平均		4.0	3.3	4.0	3.0										
15	18	4	3	4	2										
52	18	4	4	4	4										
66	18	4	3	4	3										

<取組状況、次年度への課題など>  
・本年度の重点目標は、教科内で重要であることが共有され、達成に向け、協力して行動できたと評価できる。しかし、担当学年・科目・分野の違いも関係しているためか、達成度の実感の程度には、個人差があり、評価が分かれた。  
今年度は、冬期休業期間と第3学期に、食物学科進学予定者を対象に「調理実習特別講座」を開講し、家庭教員全員で実習の基礎知識と技術の指導にあたった。  
学習成績としては大変優秀な生徒ばかりであったが、家庭で調理を実施する体験をほとんど踏んでおらず、基本的な調理法であっても、レシピを見ながらでないと実施できないという状況に驚くとともに、衣食住を含め家庭科分野の家庭での教育力・実体験が非常に低くなっていることと生徒たち自身の体験する時間・機会の少なさを実感した。考えてみれば、ちょうど家庭での調理や製作に興味を持ち、知識的にも技術的にも深まっていく小学校の中・高学年に受験のためその機会を奪われているわけであるので無理もないことである。さらに、学習や部活動・学校行事など学校生活に熱心に積極的になるほど、その他の体験時間と機会は減少することは否めない。  
しかし、進路に向け、中学・高校時代に自分の興味関心のあることを体験し深めることは、推薦入試AO入試で進学を希望する生徒にはもちろんのこと、一般入試の生徒にも重要不可欠である。今後もこのように、個人の努力でカバーしきれない状況が続くことであろう、であれば、各自の進学分野における体験の補充の意味からも、家政系の各分野を段階を踏んで習得できる講習・講座を長期休業中に展開する必要があることを強く感じた。  
・次年度は、よりアクティブラーニングを進め、タブレットの活用ができるように研鑽したい。また、上記の理由から、長期休業中に被服・食物分野を主軸に講習・講座を開講したい。将来的には、家政系に進学希望の生徒が必ず受講する方向になるとキャリア教育としても有効である。



情報科 平成27年度重点目標																	
重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない  達成度 [4]75～100%(ほとんど) [3]50～74%(まあまあ) [2]25～49%(もうすこし) [1]0～24%(わずか)	項目21	<目標> ① オフィスソフトなどを効率的に習得させ、日常的に活用できる力を身につける。 <計画> ① Word、Excelの操作方法をスクリーンに示して具体的に説明をする。また、PC演習の際には机間巡視に重点を置いて個別に指導をすることで、生徒の理解が深まるようにする															
	項目23	<目標> ② 「情報」を扱う上で必要な技術的・構造的な基礎知識を習得する。 <計画> ② コンピュータやネットワークなどのしくみや2進法、16進法等について、計算例を効果的に示すなどにより基礎知識の向上を図る。															
	項目25	<目標> ③ 情報モラルや著作権などの知識を習得する。 <計画> ③ 情報モラルの大切さや著作権法の重要性を理解させるために、より具体的な事例を示すとともに、情報に関する法律を示すことで、情報リテラシーの習得を目指す。															
	項目27	<目標> ④ スライドを作成する方法を習得することにより、プレゼンテーション能力を高める <計画> ④ これまでに学習したことを実際に活用するプレゼンテーションに関する授業の中で、与えられたテーマに沿った生徒作品を相互に発表する。															
	項目29	<目標> ⑤ 大妻女子大学との高大連携を更に深め、学習の視野を大学の分野まで広げる。 <計画> ⑤ 大妻女子大学の教授による講義を直接、生徒が受講できる機会を増やす。															
部署コード/平均		4.0	3.0	4.0	3.0	4.0	3.0	4.0	3.0	4.0	4.0						
37	19	4	3	4	3	4	3	4	3	4	4						
<取組状況、次年度への課題など>																	